

令和5年第4回燕市議会定例会
一般質問日程表

質 問 日		質 問 者			質 問 方 式	
					一括質問	一問一答
12月12日(火)	午前	1	高橋 妙子 議員		○	
	午後	2	渡邊 雄三 議員		○	
		3	藤井 秀人 議員		○	
		4	近藤 隆行 議員		○	
13日(水)	午前	5	佐野 大輔 議員		○	
		6	長井由喜雄 議員		○	
	午後	7	大島 靖浩 議員		○	
		8	小林 由明 議員		○	
		9	タナカ・キン 議員		○	
		10	齋藤 和也 議員		○	
14日(木)	午前	11	土田 昇 議員		○	
		12	稲村 隆行 議員		○	
	午後	13	岡山 秀義 議員		○	
		14	田中 淑子 議員		○	
		15	小林 秋光 議員		○	
		16	宮路 敏裕 議員		○	

令和5年第4回燕市議会定例会「一般質問表」

発言の順序	発言者	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
1	高橋 妙子 (一問一答方式)	1. プレコンセプションケアについて	(1) プレコンセプションケアについて	<p>燕市で高校3年生を対象に助産師によるプレコンセプションケアセミナーが実施されています。</p> <p>このセミナーは、将来の健康な妊娠と出産のために、若い年代に自身の健康管理の重要性を伝えることを目的としています。</p> <p>内容がわかりやすく、生活習慣の整備の重要性を男女生徒に伝えるために効果的であったとの評価があります。</p> <p>①高校3年生を対象としてのセミナーでしたが対象年齢は適切であったか伺います。</p>
		2. アドバンス・ケア・プランニングと意思決定支援について	(1) アドバンス・ケア・プランニングと絆ノートについて	<p>燕市は第一生命保険株式会社と包括連携協定を締結したことにより「絆ノート」を市民の皆様に無償で提供しております。</p> <p>思いがけないもしもの時に備え、自分の気持ちを整理し、大切な方々に想いを伝えられるものとなっています。</p> <p>エンディングノートは終活と大きく関わってきます。そして終活をより掘り下げたものに、アドバンス・ケア・プランニングがあります。</p> <p>終活とは、「人生の終わりを迎えるための活動」の略であり、身辺整理や遺言書の作成などがありますが、アドバンス・ケア・プランニングとは、これからの人生をどう生きたいか。</p> <p>自分にとって大切なものや人を見つめ直すために自分自身との対話を通して、もしもの時や、人生の最終段階になった時にどのような医療やケアを受けたいかなど、ご家族や周りの方々、医療、ケアチームと繰り返し話し合うプロセスのことです。</p> <p>もしもの時に自分の意思を最大限に尊重してもらえることなどのメリットはありますが、大変デリケートな問題でもあります。</p> <p>しかし、ご自身の意思によってなされるものであれば、人生をより充実させ、安心して過ごしていけることに繋がるのではないかと考えております。</p> <p>①燕・弥彦医療介護センターの出前講座の中でも、元気なうちからの話し合いの大切さを「私の人生メモ」を使い案内されています。</p> <p>若い方々にもアドバンス・ケア・プランニングが浸透するように取り組むべきと考えますが、今現在の市のアドバンス・ケア・プランニングの状況を伺います。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
1	高橋 妙子 (一問一答方式)	2. アドバンス・ケア・プランニングと意思決定支援について	(2) 意思決定支援について	<p>意思決定支援とは、自らの意思決定に困難を抱える方々の思いを尊重し、サポートしていく取り組みです。</p> <p>本人とご家族が医療と介護の専門職と共にどのような医療やケアを受けたいか、日頃から話し合っていくことはアドバンス・ケア・プランニングの視点からしましても重要なことですし、アドバンス・ケア・プランニングと意思決定支援は切っても切り離せないものであり、この二つは深い関連性を持っていると認識しております。</p> <p>誰もが、自分の意思で入院や医療、ケアを受けることが出来るように様々な意思決定の場において、ご家族だけではなく、医療とケアチーム、行政が連携し、関わりを強めていくことがますます必要になっていくと考えています。</p> <p>①意思決定支援に関して、市の認識を伺います。</p>
		3. 子育て支援について	(1) 全天候型子ども遊戯施設と児童研修館「こどもの森」について	<p>全天候型子ども遊戯施設が令和6年のオープンを目指し建設が進められております。</p> <p>周辺には、「こどもの森」もあり、相乗効果も大いに期待できます。</p> <p>「こどもの森」は子育て支援の機能も有しておりますし、様々なイベントも開催されております。2つの施設が持つ役割と機能は違いますがそれぞれの可能性を発揮させることができるものと認識しております。</p> <p>10月に市民厚生常任委員会の行政視察で山形市のシェルターインクルーシブプレイスコパルさんを訪問させていただきました。</p> <p>すべての子供たちが「生きる力を育む、未来の遊び場」というキャッチフレーズを掲げておられ、「生きる力」「インクルーシブ」「地域共生」この3つをテーマとされています。</p> <p>障がいのある方限定の「インクルーシブ・デイ」を年に2回開催されており、1日に400人ほどの来館者があるそうです。</p> <p>施設のそばに「みずの広場」がありまして、そこに車椅子のまま乗れるブランコが置いてありました。そこに、青森から往復10時間かけてきた親子もいるそうです。</p> <p>このように、時間をかけてでも行きたい、そしてまた来たい、子供たちだけではなく保護者の方にもそう思ってもらえるような施設の強みですとか、アピールポイントが必要になってきますが、全天候型子ども遊戯施設と「こどもの森」の機能と役割を踏まえて、「子育てするなら燕市」を全国の皆さんに知っていただけるようなアピールポイントや将来の展望がありましたら伺います。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ続く)</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
1	高橋 妙子 (一問一答方式)	3. 子育て支援について	(2) 児童研修館「こどもの森」の可能性及び子供の居場所としての機能について	<p>全天候型子ども遊戯施設ができることに伴い、歴史のある「こどもの森」も、市内外の方々にもっと幅広く知って頂きたいと思っております。</p> <p>そして、全ての児童館がそうですが、「こどもの森」は18歳までの子供たちが利用できるということを改めて中高生を含む若者にもっと知ってもらいたいと考えています。</p> <p>地域の中高生を含む若者が気軽に「こどもの森」に来れる環境づくりをすることは、中高生のみならず、その姿を見ていく子供たちにとっても良い影響を与えるのではないのでしょうか。</p> <p>①児童館及び児童研修館の対象年齢が18歳までとなっている理由を伺います。</p> <p>②「こどもの森」の築年数及び今まで改修工事はされたことがあるか伺います。</p>
2	渡邊 雄三 (一問一答方式)	1. 高齢者の健康管理について	(1) 带状疱疹ワクチン接種について	<p>①带状疱疹のワクチン効果についてどのような認識を持っているのか伺います。</p> <p>②健康な生活を送ることは、年を重ねてからが特に大切なことであると思えます。</p> <p>带状疱疹ワクチン接種の費用を助成し、接種を希望される多くの市民が、受けやすくすることが大切であると考えます。</p> <p>ワクチン接種補助事業の制度化を要望したいが、市長の考えを伺います。</p>
		2. 将来を見据えた財政のあり方について	(1) 財政の硬直化を進めないための対策について	<p>①社会保障関係費の増加や物価高騰の影響などから燕市の経常収支比率は悪化しています。</p> <p>今後更に全天候型子ども遊戯施設などの新たな施設の管理運営費や市民体育館といった大規模施設の更新費用なども見込まれる中、これ以上、財政の硬直化を進めないための対策が必要と思うが市の考えを伺います。</p>
			(2) 将来の財源不足への対応について	<p>①新たに整備された施設の管理運営費など、今後見込まれる将来の財源不足に対応していくため、経常収支比率の改善は喫緊の課題であり、そのためにも本市がこれまで取り組んできた財政健全化策から更に一步踏み込んだ対策も必要と考えるが認識を伺います。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言者	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
2	渡邊 雄三 (一問一答方式)	3. 交通安全対策について	(1) 自転車のヘルメット着用について	<p>①警察庁は令和5年9月14日、7月に全国で実施したヘルメットの着用率調査結果を発表した。それによると県内1,163名のうち、着用していたのが28名で全国平均13.5%、新潟県は2.4%で全国ワースト1であったが、市としてはどのように捉えて、今後どのような対策を講じていくのか伺います。</p> <p>②中学生が通学で使用していたヘルメットについて、卒業してからの活用をどのように見ているのか認識を伺います。</p> <p>③卒業後も活用しやすいように、卵型ヘルメットからスポーツタイプのヘルメットに移行できないか伺います。</p>
3	藤井 秀人 (一問一答方式)	1. 燕市の農業について	(1) 今後の農業に対する考え方について	<p>①今年とは異常気象による大変な被害が発生した。来年以降も同じような状況が想定されるが、来年以降どのような対応をしていかれるのか伺う。</p> <p>②今年状況を受け、離農する人の話を耳にする。今春、農業者に対し今後の農業に対するアンケートを取られたが、農家の意向の内容はどのようなものであったのか伺う。また、先般農業団体との意見交換会も開催されたが、その中での意見も含め伺う。</p> <p>③農地集積の障害となる市内における所有者不明農地はどれ位把握されているのか伺う。</p> <p>④国庫帰属制度の申し込みは導入以来燕市では農地の申し込みはどれ位あるのか伺う。</p> <p>⑤全市町村での策定が始まった「地域計画」についてはどのように進めていくのか伺う。</p>
		2. 森林環境税について	(1) 森林環境税導入による今後の森林管理の考え方について	<p>①市内の林野面積はどれ位の面積があるのか伺う。</p> <p>②森林環境贈与税は毎年どれ位の金額になるのか伺う。また、使い方はどのように考えているのか伺う。</p> <p>③先般、山林所有者を集めて説明会があったと聞いているが、地権者からはどのような意見があったのか伺う。</p> <p>④地権者の意見をふまえ、市としては今後どのような森林管理を進めていく考えなのか伺う。</p>
		3. 鳥獣害対策について	(1) 市内の鳥獣害対策について	<p>①市内の鳥獣害の発生状況はどれ位なのか伺う。</p> <p>②今までの対策を講じた内容と成果はあったのか伺う。また、今後の対応策は考えられているのか、具体的な内容を伺う。</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
4	近藤隆行 (一問一答方式)	1. 子供の権利について	(1) 「こども基本法」について	<p>①今年度4月より「こども基本法」が施行されました。「こども基本法」が目指すものは、子供が権利の主体であることを社会全体で認識するという「こどもまんなか社会」の実現にある。</p> <p>今まさに、子供の権利の実現を社会でどのように具体化していくかが問われているが、市では「こども基本法」をどのように捉えているか伺います。</p> <p>②「こども基本法」が施行され、子供たち自身が、自分たちは権利の主体であるという意識や、自覚を育める学びの機会を作ることが必要であると考えます。</p> <p>施行後、市は子供たちへの周知や、そのような学びの機会を作ったか伺います。</p> <p>③「こども基本法」において、自治体に対して努力義務とされていることがあるなか、第11条は「こども施策に対するこども等の意見の反映」が、義務づけられているが、市において、子供の意見を聞く場、子供の意見を施策に反映する場があるのか伺います。</p>
			(2) ヤングケアラーについて	<p>①ヤングケアラーは、本来なら子供として享受できるはずの大切な時間を、家事や家族の世話に費やし、本人が意識していないところで、子供としての権利が侵害されている可能性がある。市では今年度、ヤングケアラーサポート事業としてチラシ作成などの周知を図ったかと思うが、当事者である子供や保護者の理解が深まったのかどうか伺います。</p> <p>②市としてヤングケアラーの実態をどのように把握しているのか伺います。</p> <p>③ヤングケアラーに対する対応や支援を、市は今後どのように考えているのか伺います。</p>
		2. 除雪体制について	(1) 除雪体制の現状について	<p>①地球温暖化が進行している現在ではあるが、気象庁が発表するデータにおいて、10年後、20年後の降雪量に大きな変化はなく、また逆に温暖化によって大雪になる可能性が増えるとのデータもあり、市において今後も安定的な除雪体制の確保が必要であると考えます。</p> <p>そのために必要な要素として、除雪オペレーター、除雪機械の確保が大きいと考えるが、市としてこの2つの現状をどのように把握しているか伺います。</p>
			(2) 安定的な除雪体制の確保について	<p>①今後の安定的な除雪体制を確保するため、市としてどのように考えているか伺います。</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
5	佐野大輔(一問一答方式)	1. 障がい者雇用の促進について	(1) 障がい者雇用の現状について	<p>9月定例会において、発達障がいもしくは可能性のあるお子さんの割合が13%を超えているとの答弁があったが、発達障がい以外にもあらゆる障がいがあるお子さんがいることを考えると市内において障がい者支援や対策については今後非常に重要な位置付けになっていくと考える。</p> <p>さらに障がい児(者)の家族が抱えるの悩み一つとして、子供が大きくなり、特別支援学校を卒業した後に、自立して生きていくことができるのかということがあげられる。</p> <p>また、市内の企業においては人手不足も顕著になってきており、仕事を探している障がい者の方々と、人手を欲しがっている企業とのマッチングが進むことによって双方にとってWIN-WINの形になるため、障がい者雇用への政策を進めていくことは今後の燕市にとっても非常に重要である。</p> <p>①「障がい者雇用」について、障がい者や障がいのある子の家族の置かれている現状を踏まえて市はどのように考えているか伺う。</p> <p>②現在の障がい者の方々の工賃の月額はいくらか、その工賃の金額に対して市はどのように考えているか伺う。</p> <p>③現在、障がい者就労支援事業所において、どのくらいの企業の作業を受託しているかを把握しているか伺う。また、把握している場合はその数もあわせて伺う。</p>
			(2) 障がい者雇用政策について	<p>市では、今年度、販路拡大や新商品開発、また企業とのマッチングなど様々な取り組みを行っており、障がい者雇用の促進や授産品の販売促進に向けて取り組んでいると理解している。</p> <p>さらには、障がい者への理解を進めるためにバリアフリーフェスなどの取り組みも進めていることも理解した上で、以下の内容について伺う。</p> <p>①今年度の障がい者雇用政策の進捗状況と今後の展開について伺う。</p> <p>②県では、障がい者雇用の理解促進のために、先進企業等見学会や事例集の作成、また、優良事業所表彰などを行っているが、市では、障がい者雇用の経験がない企業に対してより周知を進めていくためにどのように対策をしているのか伺う。</p> <p>③周知にあたって、一般の方に授産品について知っていただき、実際に手に取っていただく取り組みとして、1月のツバメルシェはとても良い例である。同じように企業の方々が多く集まるセミナーやイベント、商工団体の集まりなどでの周知や、一例としてジャパン・ツバメ・インダストリアルデザインコンクールにおいて、コラボ商品や障がい者就労支援事業所のオリジナル商品を称える賞を設置する取り組みなど、既存事業の中で様々な方や企業が参加する取り組みにおいてコラボレーションをするようなことを広くかつ継続的に行えないか伺う。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ続く)</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
5	佐野大輔 (一問一答方式)	2. ゼロカーボンシティの実現に向けて	(1) ものづくりの現場における取り組みについて	<p>国として2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにするカーボンニュートラルの実現を宣言したことに伴い、燕市でもゼロカーボンシティ宣言を行い、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指して政策に取り組んでいる。</p> <p>① 3月定例会において工場の遮熱・断熱の効果についてお伝えし、調査研究を進めていただいたが、今後、市としては、こういった取り組みの支援について調査研究を踏まえどのように考えているか伺う。</p>
			(2) 電気自動車の普及に向けた取り組みについて	<p>国では、2035年までにガソリン車の新車販売の禁止や2050年に自動車の生産、利用、廃棄を通じたCO₂ゼロを目指すとしている。</p> <p>燕市においても先日、脱炭素経営省エネ実践セミナーと合わせて電気自動車展示試乗会をするなどの取り組みを進めており、5月、11月と企業から市に電気自動車を寄附していただいたと承知している。</p> <p>① 多くの市民に電気自動車が普及することでゼロカーボンシティの実現に近づけると考える。柏崎市では、国の補助とは別に市独自の補助を行なっているが、燕市としても補助を検討してはいかがか伺う。</p> <p>② 電気自動車普及に向けては、充電できる場所の確保が増えることが必要だが、市としてはどのように整備を検討しているか伺う。</p> <p>③ ガソリン車から電気自動車に移行していく中で、市内の製造業においてガソリン車関連の部品を製造している企業も多くあり、自動車整備関係においても少なからず影響があると考えられるが、電気自動車化に対する産業への影響を市はどのように認識しているか伺う。</p>
		3. おでかけきららん号について	(1) 県央基幹病院への利用について	<p>おでかけきららん号においては、西エリア、東エリアと分かれて燕市、弥彦村内を運行しており、一部の目的地においては、全域から乗り継ぎなしで送迎を行っている。</p> <p>2024年3月1日開院予定の県央基幹病院においては、県央医療圏の中核ではあるが、三条市内に位置しており、本来は市外ということで利用できない場所にあるが、スワロー号においては、8月の議員協議会で停留所を追加する旨の協議が行われた。</p> <p>① おでかけきららん号においても直近のチラシでは、3月1日から利用可能となっているが、今後どのように周知していくか伺う。</p> <p>あわせて、県央基幹病院は市内、弥彦村の双方から多くの利用が想定されることから、全域から乗り継ぎなしで送迎可能にすることで利便性が高まると考えるが、市としてはどのように考えるか伺う。</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
6	長井由喜雄(一問一答方式)	1. 子供のインフルエンザワクチン接種補助の拡充について	(1) 対象年齢と補助額の拡大を	<p>① 燕市は子供のインフルエンザワクチン接種については小学校6年生までを対象に1回のみ1,000円を助成している。</p> <p>県内自治体を見ると子供と子育て世代の応援により県内の他市町村では拡充されているところが多い。</p> <p>また、県央市町村を見ても補助額、補助回数、対象年齢で勝るところが多い。</p> <p>コロナ感染症蔓延後季節性インフルエンザが長期間となり、コロナと並行感染する状況となっている。</p> <p>対象年齢、補助額、補助回数の拡大を求めるがいかがか。</p>
		2. プラスチック資源循環と紙おむつリサイクルについて	(1) 燕市の現状について	<p>① 2022年4月から「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が施行され、法律、政令、省令、告示、通知が発せられている。</p> <p>燕市の現状について伺う。</p> <p>これに関してはプラスチック製品を製造する企業も関係するものであり、この点からの取り組みの現状はどうか伺う。</p> <p>また市民生活から出されるプラスチックゴミについてはこれを処理する取り組みも重要だ。</p> <p>現状と課題についてはどうか伺う。</p> <p>② 燕市では大人用紙おむつは各家庭及び施設利用者は各施設で、そして子供の紙おむつは家庭及び保育施設での処理となっている。</p> <p>市内における紙おむつ使用量やゴミとして出される紙おむつの量は把握しているか伺う。</p> <p>また環境省が2019年12月に行った全国自治体を対象としたアンケートにはどのように回答したか伺う。</p>
		(2) プラスチック及び紙おむつリサイクルの取り組みについて	<p>① プラスチック資源循環の燕市の今後の取り組みについて伺う。</p> <p>② 紙おむつリサイクルに取り組む自治体はまだ少なく35自治体ほどとされている。しかし、高齢化の中で、消費される紙おむつの再資源化は重要であると思う。燕市の今後の取り組みについて伺う。</p>	

(次ページへ続く)

発言の順序	発言者	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
6	長井由喜雄(一問一答方式)	3. 柏崎刈羽原子力発電所に係る問題について	(1) 福島第一原発に関する3つの検証「総括報告書」などについて	① 9月13日付で新潟県が「福島第一原発事故に関する3つの検証・総括報告書」と「柏崎刈羽原子力発電所に関する安全対策の確認と原子力防災の取り組みの状況」を公表した。 10月、県内議員有志で構成する「柏崎刈羽原子力発電所30km圏内(U P Z)議員研究会」もこれについて県の防災局安全対策課から説明を受けたが、市長のこれら文書についての感想及び見解を伺う。
			(2) 「市町村による原子力安全対策に関する研究会」について	① 当研究会の事務局である長岡市のHPからその活動を見ることができるが、7月27日に実務担当者会議が開催され、その報告の中に「柏崎刈羽原子力発電所に関する懸念事項」もまとめられており、県民、市民が持つ共通の不安、不信、懸念などが示されていた。各自治体からのものがまとめられているようだが、燕市からはどのような懸念を示されたのか伺う。 ② HPでは「首長の会合」も報告しているが、直近でも令和3年5月に、新潟県知事に原子力安全対策等に関する要望書を提出したのちは報告がないが、首長による会議などの必要性についての考えを伺う。 ③ 原発再稼働への動きがある中で、市長は再稼働に対してどのような態度で臨まれるか伺う。
			(3) 事前了解権について	① 後をたたない東京電力の不祥事の中で柏崎刈羽原子力発電所の再稼働が議論されている。 燕市をはじめ30km圏内にある自治体は避難計画を作成するという義務が課せられながらも再稼働などへの住民の意思を示す機会がないままとなっている。 国や県、設置自治体だけの意思で市民の命、生活、そして子供たちの未来に大きな影響を及ぼすことを決めていいのか。 市長は今こそ自治体の事前了解権を主張すべきではないかと考える。市長の考えを伺う。
		4. 3月1日に開院する済生会新潟県中央基幹病院について	(1) 開院間近の済生会新潟県中央基幹病院について	① 県央地域住民の念願だった県央基幹病院が3月に開院する。建物の全景も見えて住民の期待も大きくなっていることと思う。 昨年9月から10月にかけて燕市など県央地域の自治体において住民説明会が開かれたが、その後は県からの直接の説明は行われてこなかった。 しかし、三条市では「県央地域の医療再編に係る住民説明会」を10月から11月にかけて8か所で開いている。一年前の説明会でも時間的に全てが伝えられたと思えないが、その後の中で何が変わったのか。 燕市においても住民への説明会を求めるべきと思うが、市としてどう考えているのか。 開院に向けて燕市として課題となることはないのか伺う。

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
7	大島 靖浩 (一問一答方式)	1. 燕市における農業振興策について	(1) 農業の担い手の育成・確保について	<p>本市の「2020年農林業センサス」によれば(1)農業経営体数は1,159経営体で、前回調査に比べて259経営体(△18.3%)減少した。組織形態別にみると、法人化している経営体は26経営体で、前回調査に比べて5経営体(23.8%)増加した。このうち農事組合法人は18経営体で、前回調査に比べて4経営体(28.6%)増加した。</p> <p>①一方で本市の年齢別基幹的農業従事者数を見ると、50歳から59歳は82人で、2015年に比べ50パーセント以上減少している。 若手農業者の増加を目指した具体的施策について伺う。</p> <p>②燕市第3次総合計画における担い手への農地集積率は、基準値(令和3年度)74.3%から中間目標値(令和8年度)80.0%、目標値(令和12年度)90.0%となっている。進捗状況と、目標達成に向けた具体的施策について伺う。</p>
			(2) 収益の確保について	<p>①チャレンジファーマー支援事業では、経営規模拡大に必要な機械等の導入や、農業経営の複合化、先進技術の導入など、新たな取り組みにチャレンジする農業者への補助を行っているが、令和5年度における状況について伺う。</p> <p>②先般、議会広報の作成のため、市民の声の取材において、本町きゅうりの生産者からお話を伺った。産地としてのブランド化が図られ、子息が後継者となるなど、いわゆる「儲かる農業」へ進化したことを述べておられた。稲作においても、同様の取り組みや工夫はできないものか伺う。</p> <p>③長岡市では、11月7日に4点を柱に米政策を展開すると発表した。 今後は、農業者のセーフティネット強化として①「収入保険の加入支援」、②等級低下による風評被害対策として「うまい長岡米の発信」、③等級重視の市場からの脱却を目指す「新ブランド米の立ち上げ」、④気候変動に対応した強い生産体制の確立のための「スマート農業の活用促進」である。 そのうち、「新ブランド米の立ち上げ」及び「スマート農業の活用促進」については、本市においても、更に進めるべき課題と認識している。これらについて、現状や今後の取り組みに係る認識を伺う。</p>
			(3) 令和5年産米の品質低下の状況及び今後の取り組みについて	<p>①令和5年産米の等級の状況について伺う。</p> <p>②コシヒカリの等級は大幅に減少したものの、新之助の一等米比率は97%と聞いている。 農家に対して、耐暑性品種で新之助の積極的な導入を進めるべきと思われるが、市の考えを伺う。</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
8	小林由明(一問一答方式)	1. 持続可能都市の実現について	(1) 定住人口増戦略と自治会について	<p>①持続可能性が高く住みよいマチを実現しようとする市が、住民の日常生活に大きな影響を与える自治会運営に対して何を期待しているか伺う。</p> <p>②燕市でもかねてより、自治会運営の改善について市民から市に対し相談があると思うが、持続可能性の高い都市の実現に向け努力を続ける市にとって、こうした状況をどのように感じ、どのような課題があると考えどのように向き合いたいと考えているか伺う。</p> <p>③本年6月ころに実施された「自治会・町内会に関する市民意識調査」の内容や結果と、そこから見えてきた課題はなにか。 また、その課題に市はどのような策を講じようと考えているか伺う。 (実施期間、周知の方法、調査方法、回答数、回答の内容など)</p> <p>④自治会運営が日常の生活に支障を来し移住後の転出につながってしまった事例が市内にもいくつもある。自治会運営は、定住意欲や移住後の転出に大きな影響を与える要素の一つであり、また、市の住みよさ住みにくさにも大きな影響を与えている。都市の持続可能性を高めるために自治会運営がどれほど影響力を持つかや、市民からの自治会運営に対する相談内容について、自治会と共有し、その改善や向上にとともに取り組むべきではないのか伺う。</p>
			(2) マチナカ・都市機能誘導区域への人の流れについて	<p>①立地適正化計画では、都市基盤や生活サービス機能が充足し、徒歩等で容易に回遊することができる一体的なエリアとして都市機能誘導区域を設定している。マチナカを含む都市機能誘導区域では、都市機能を持つ施設の誘導のみならず、そこへの人の誘導と増加が必要であり、そのための移動手段にも目を向ける必要がある。 区域外からマチナカ(商店街)への移動手段(交通分担率)はどうなっているか。 特に自家用自動車の役割はどうか伺う。</p> <p>②全国的に都市機能の拡散が進んでいる状況があるが、これから集約型都市構造、いわゆるコンパクトプラスネットワークを目指した都市再生を進める上で、交通政策は非常に重要な役割を担っているとされている。モータリゼーションが著しく進んでいる現代社会においては、特に、機能集積した地域の駐車場の在り方が、コンパクトプラスネットワークや安全で歩きたくなる居心地のよいまちづくりの、成否を分ける重要なものと考えられているが、市は都市機能誘導区域内の駐車場の在り方についてどのように考えるか伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
8	小林由明(一問一答方式)	1. 持続可能都市の実現について	(2) マチナカ・都市機能誘導区域への人の流れについて	<p>③人口の約4割が高齢者となる超高齢社会は目前に迫っており、また、働き盛り世代、子育て世代の定住・移住を懸命に促進している燕市にあって、マチナカを含む都市機能誘導区域内への高齢者や家族連れの移動手段に着目し、その流れを増やす取り組みは、持続可能性が高く、住みよい都市を実現するために極めて重要なことだと考えている。</p> <p>中心市街地再生モデル事業をはじめ、小売商業活性化事業や民間事業者の熱意ある活動により、マチナカを含む都市機能誘導区域内が活性化の流れにあるが、そもそも、機能集積だけ進んでもそこを利用する人がいなければ都市も持続しようがない。</p> <p>より多くの方が都市機能誘導区域内へ訪れることができるようにするために、利便性の高い駐車場整備はもちろん、自転車や手押し車が通れるようなスペースの整備、区域内回遊を支える休憩スペースの整備など、人の流れを増やしつつ、回遊と滞在時間を増やすことのできる環境の整備が必要ではないか伺う。</p>
			(3) マチナカの活性化と交通安全について	<p>①燕駅周辺の商店街エリアでは、子供の利用が多く見込まれる施設がNPO団体によってオープンされたところであり、平日でも放課後から18時までの営業中常に少なくとも20～30名程度の子供たちが利用している。多くの子供たちによってマチナカに活気が生まれている一方で、車両通行量が多い道路が前面にあることから、駐車された車の陰にいる子供に気づかず事故が起こるのではないかとという心配や、小路と商店街が交わる場所において車の飛び出しが多くあることから、事故の発生を心配する声があがっている。活性化しつつある商店街エリアでの交通事故を防ぐために、車両への注意喚起など、市としても効果的な対策を講ずるべきだと考えるがいかがか。</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
9	タナカ・キン (一問一答方式)	1. 公共施設のトイレについて	(1) 文化会館のトイレの洋式化について	<p>①文化会館の2階は展示ギャラリーになっていて、絵画グループを中心に利用団体も多い場所である。9月に展覧会を観に行った時のことである。その団体の女性会員さんからトイレのドアのカギを見てくれと頼まれ、それはすぐに直してもらったのだが、トイレが和式だったのである。もちろん男子トイレも同様である。ギャラリーを利用する団体の会員さんは高齢者が多く、お客さんも大半が高齢者である。足腰が弱っていたり、ヒザが悪い方には和式トイレはとても使いづらい。また、文化会館の他のトイレは全て洋式トイレである。このトイレも改善すべきと思うが伺う。</p>
			(2) 公民館のトイレの洋式化について	<p>①市内の中央公民館や吉田公民館のトイレは全て洋式である。他の公民館のトイレの洋式化率について伺う。</p>
			(3) トイレ内のフック設置について	<p>①トイレの個室のドアに手荷物や服を掛けるフックが設置されているものだが、中には設置されていないトイレもある。確認されているか伺う。</p>
		2. おいらん道中について	(1) おいらん道中について	<p>今年で78回という歴史のある大きなイベントである。地域の活性化につながっているか検証したい。</p> <p>①歴史について伺う。 コロナでの中止や雨天により分水総合体育館での屋内開催もあった。質問では資料をいただいている2018年・2019年について伺う。</p> <p>②見物客の人数について伺う。 ③有料駐車場の台数と利用された車の台数について伺う。 ④利用料について伺う。 ⑤観光バスでの見物客の人数について伺う。 ⑥分水駅からさくら公園までシャトルバスを出しているが、人数を伺う。 ⑦そのうち、JR利用の見物客の人数を伺う。 ⑧有料観覧席の利用人数と料金を伺う。 ⑨有料観覧席の見物客に対してアンケートは取っているか伺う。 ⑩「おいらん」は歩く以外に何かするのか伺う。 ⑪経済効果についてどう考えているか伺う。 ⑫時代や社会が変化しても大河津分水桜並木が変わらず会場という理由について伺う。 ⑬おいらん道中は、全国何ヶ所で行われているか伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
9	タナカ・キン (一問一答方式)	3. 桜並木について	(1) 現状と今後について	<p>古い文献によれば、大河津分水工事完成を記念して明治43年より桜の木が植えられ昭和11年当時で6,000本とのことである。</p> <p>その後、昭和19年には大東亜戦争時の燃料欠乏などにより千数百本が伐採されたという。</p> <p>昭和28年には土手の7kmの間に5,800本とあることから、戦後の復興とともに桜の木も植えられていったのだろう。当時の人々の桜への熱い思いが伝わってくる。</p> <p>平成2年には「さくら名所100選の地」として、大河津分水の桜が選ばれている。</p> <p>①この時の桜の本数を伺う。 ②現在の本数を伺う。 ③桜の名所として、今後どう対応されるのか伺う。</p>
10	齋藤和也 (一問一答方式)	1. キャリア教育について	(1) 職業を知る機会や体験について	<p>子供たちは燕市の宝であります。</p> <p>燕市の未来を担う子供たちは専門学校や大学生などこの地域を離れてしまうと都心部で就職定住するという流れは変わりません。なぜこの地域に戻ってこないのか。</p> <p>一つの要因として、この地域での職業を知る機会や体験といった地域産業に触れ、そしてこの地域でも生活できることを実感できていないのではないかと思います。</p> <p>燕市は「Good Jobつばめ推進事業」を実施し、中学1年生を対象にキャリア教育講演会、中学2年生を対象に3日間職場体験とマナー講座を実施していますが、2年間で数日、数時間の時間では進路選択の一助としては子供たちが働きたいと感じるには難しいと思います。</p> <p>以上を踏まえ、以下の内容を伺います。</p> <p>①中学生の複数の職場体験の実施や地元企業の取り組みを実感できる機会について伺います。 ②小学生から職業体験や仕事を知る機会があるのかについて伺います。</p>
			(2) 保護者向けの進路指導や相談について	<p>子供たちの進路については子供だけでなく、親子で関わらなければなりません。</p> <p>しかし、職業や進路に関する情報は子供任せや学校任せになっている家庭も少なくはありません。共働き家庭が増加し、親子のコミュニケーションが不可欠になります。</p> <p>以上を踏まえ、以下の内容を伺います。</p> <p>①保護者向けに進路について指導やセミナーを実施しているのか、進路に関する相談窓口はあるのかについて伺います。 ②今後の子供たちの職業や進路選択に関する取り組みや方向性について伺います。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
10	齋藤和也 (一問一答方式)	2. レジリエンス教育について	(1) レジリエンス教育の燕市の現状について	<p>レジリエンスとは、回復力、反発力、復元力、逆境力などと訳され、心理学用語として、困難やストレスなどによる落ち込みから立ち直ることができる心の弾力性、しなやかさという意味で用いられてきました。日本の教育現場でも、レジリエンスを育むことで生きる力を身につける「レジリエンス教育」が一部の地域や学校で実施されています。</p> <p>レジリエンス教育によって日々の生活において事故や災害などの困った出来事が起こった際、落ち込みから立ち直る力。家庭問題や貧困など、好ましくない養育環境のなかでも健やかに、適応して生きる力の2つが身につけられるとされています。</p> <p>以上を踏まえ、以下の内容を伺います。</p> <p>①レジリエンス教育について、燕市の現状の取り組みや今後の方向性について伺います。</p>
11	土田昇 (一問一答方式)	1. 農業問題について	(1) 異常な高温障害等で3等米や規格外のコメが大量に発生しているが、その数字と対応について	<p>①農水省は10月31日に異常な高温で全国の1等米比率を公表しているが、新潟県の1等米は13.5%と報道された。</p> <p>燕市の1等米から規格外までの数字(※)について伺うと同時に、新之助の作付面積を増やすべきと、県に強く要望すべきと考えるがいかがか。</p> <p>(※)ゆきんこ米、こしいぶき、コシヒカリ、新之助の1等から規格外までの数字。</p> <p>②異常な気象による米の品質低下で各農家は厳しい経営状況と思うが、近隣市、町、村では「緊急支援事業」として10aあたり5,000円から4,000円の補助金(※)で対応している。</p> <p>燕市としても必要な制度であると思うが市長の見解について伺う。</p> <p>実施している交付対象の農家はどのような状況か、作付の農家個人や生産組合、農業法人等々の対応についても伺う。</p> <p>(※)11月25日現在、弥彦村5,000円、三条市5,000円、田上町5,000円、見附市4,000円。</p> <p>③現在農地中間管理機構が平成26年度から実施してきた貸し手(地主)、受け手(耕作者)の契約が10年経過して(10年契約が基本)契約が解除された土地があると思われる。</p> <p>今後も多く出てくるが、現状のような米価では耕作しても利益が出ないので再契約が難しい状況になってきていると思う。</p> <p>受け手(耕作者)に補助制度を確立しないと耕作放棄になる可能性が非常に高くなってきていると思うが、今後の対策と基本的な考えについて伺う。(国、県、市、町、村が責任を負うべきと考える。)</p> <p>④農地中間管理機構が2024年で契約が解除される面積と件数、農地中間管理機構が関係していない面積と件数はどのような状況か伺う。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ続く)</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
11	土田昇 (一問一答方式)	2. 県央地域の医療再編と今後の県立吉田病院の役割について	(1) 再編後の吉田病院の役割と機能について	<p>①2024年3月1日から県央基幹病院が開設され県立吉田病院と連携すると理解している。 その説明を市民の方々に詳細に説明しなければならない時期にきていると思われるが現状と今後の見通しについて伺う。</p> <p>②現地改築はいつから行われるのか伺うと同時に県の病院局が発行している文書でも、移行準備状況に応じて複数回の説明会を開催としている。 今後どのような計画になっているのか地元(吉田大保町、吉田曙町、吉田吉栄)に説明会を求めるが今後見通し等々も含めて伺う。</p> <p>③県立吉田支援学校との関係はどうなるのか伺う。 (治療する子供さんは医師が必要です。)</p>
12	稲村隆行 (一問一答方式)	1. 新型コロナワクチン接種について	(1) 新型コロナワクチン接種後の副反応に関して	<p>①新型コロナワクチン接種後、副反応が生じた市民からの相談件数とその内容についてお伺いします。</p> <p>②市としてワクチン接種後の長引く副反応に関する相談窓口や国の予防接種後健康被害救済制度の申請をされる方を対象にした、申請までにかかった医療費等の一部を支援金として支給するような制度を導入するお考えがあるか市の見解をお伺いします。</p>
		2. 燕市の保育園、こども園について	(1) お昼寝コットの導入について	<p>①市内の保育園、こども園のお昼寝コットの導入状況についてお伺いします。</p> <p>②お昼寝コットの導入をさらに進めていく考えがあるか市の見解をお伺いします。</p>
			(2) おむつの定額制導入について	①おむつの記名と毎日の持参をなくすために、希望する方におむつの定額制導入を進める考えがあるか市の見解をお伺いします。

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
13	岡山秀義(一問一答方式)	1. 冬季道路交通確保計画について	(1) 除雪車運行管理について	<p>① 燕市は、豪雪地帯対策特別措置法に基づく豪雪地帯に指定されており、冬季積雪期における道路交通確保は、市民の日常生活や社会活動を維持するためにきわめて重要な施策である。</p> <p>積雪時には機械除雪を主体に消雪パイプ等の消融雪施設を併用し、道路管理者相互の緊密な連携のもとで効率の高い除雪を実施している。</p> <p>特に除雪委託業者との連携が重要であると考えます。</p> <p>県内においては多くの自治体がGPSを搭載し稼働している。</p> <p>管理者と除雪委託業者そして市民で情報共有できるように燕市も除雪車にGPSを搭載し、リアルタイムで公開してはいかかがか伺う。</p>
			(2) 除雪時の安全管理について	<p>① 除雪車のほとんどが、特殊自動車免許や大型自動車運転免許などの特殊免許と、1年以上または2年以上の運転経験がなければ運転ができない。</p> <p>冬季の路肩排雪作業では、堆雪により外側線や路肩防護柵などの位置が把握できないことがあり、除雪作業には熟練の経験を要する。</p> <p>危険も伴うため誰でも簡単に操作ができるわけではなく、ある程度の経験やスキルが求められる。</p> <p>しかしここ数年、操作にたけた熟練オペレーターの高齢化や少子化による労働者不足が懸念されている。</p> <p>今後、積極的に若いドライバーの育成が急務といえる。</p> <p>いかに安全を確保するか、市民や運転手、オペレーターの命を守る為にもセンサーやカメラを設置し安全確保に努め「1人乗り化」も検討すべきと考えますが認識を伺う。</p>
			(3) リース契約と補助金について	<p>① 令和3年度は28台のリース契約があり、除雪車年間管理費を考慮すればリース契約が良いのかもしれないが補助金を出して業者に購入してもらうのも一つの方法と考えますが認識を伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
13	岡山秀義 (一問一答方式)	2. 教育施設の防犯対策について	(1) 犯罪から子供たちを守る為に	<p>①教育施設の防犯対策として、敷地境界、敷地内、建物内等における防災監視システムや通報システムが必要である。 「いつ」「どの範囲を」「どのような手段で」「何を防ぎ、誰を守る」のかを明確にし、地域社会との協力関係等を踏まえた上で、個々別々ではなく総合的に計画し、全体として整合性がとれたものとするのが大切と考える。 燕市においても不審者情報が度々報告されているが、教育施設でのインターフォンでの対応や施錠について伺う。</p> <p>②不審者の侵入被害が起こってしまった時には防犯カメラが大いに活躍できる。 入口にカメラを設置することにより、威嚇効果もあり、また事務所から映像を確認しながら入退室の対応も可能となる。 また、万が一侵入されたとしても迅速な捜査が可能となる。 教育施設すべてにおいて子供たちを守る為に防犯カメラは必要と考えるが現状と今後の対策について伺う。</p>
14	田中淑子 (一問一答方式)	1. 国の最も重要な課題の一つ、少子化について	(1) 燕市の少子化対策について	<p>①娘が子育て中なので複数の30歳前後の若い世代の方々に話を聞きました。 国が異次元の少子化対策といっているが何をしてもらったら良いか質問しました。 まずは、物価がどんどん上がっているので給料を上げてほしい。 そして、高校まで医療費とすべての学費の無償化をしてほしいとの意見でした。 これはどちらも市として難しい話です。でも、本音は2人以上の子供がほしいと思っている夫婦が多いようです。 そこで市の考えを伺います。</p>
		2. 空き家対策について	(1) 空き家のリフォームについて	<p>①若い夫婦は今、低金利でお金が借りやすいため、3千万～4千万を借り、月々とボーナスの返済の住宅ローンを組んでいるようです。 なのでとても将来が不安で、精神的な余裕がなく、これも少子化へとつながっているように思います。 そこで住宅ローンの負担を少しでも減らすために空き家の再利用が必要ではないかと考えます。 リフォームをすれば新築の半分から2/3の費用で出来る可能性があります。 そこで空き家対策の補助金等について伺います。</p>

発言 の 順序	発 言 す る 員	質 問 項 目 (大項目)	質 問 要 旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小項目)
15	小林 秋光 (一問一 答方式)	1. 公園の管 理	(1) 遊具の 安全管理	<p>燕市では、子供たちが安全で楽しい遊びを楽しめるよう、全天候型子ども遊戯施設を令和6年度末までに開設を目指すなど、積極的な取り組みを行っている。しかし、一方で各地の公園内にある遊具が破損や劣化し、遊具が封鎖されている状況が見受けられる。このような状態の遊具は子供たちにとって危険を招くだけでなく、遊びの機会を奪っている。遊具が使えない状態で放置されることは避けるべきである。</p> <p>市でも今年度公園施設長寿命化計画の策定に向けて現地確認などを実施されていることも承知しているが、壊れた遊具が確認され次第、速やかに撤去し、安全で楽しい遊びの場を提供できるよう努めるべきと考える。</p> <p>①壊れた遊具について封鎖されている状況を確認するケースがよく見受けられるが、この遊具の対応についてはどういう方針や優先順位を持って対応されているのか伺う。</p> <p>②遊具の不備や故障等についてはどのような連絡方法があるか伺う。 特に閉庁時においてはどのように連絡、対応を行うか伺う。</p>
		2. 交通安全 施設の維持 管理	(1) 定期点 検につい て	<p>11月20日に、東京の江戸川区の交差点で、信号機に取り付けられていた約3キロの標示板が落下し、70代の女性がけがをした。</p> <p>区によると、この標示板を含む道路標識については定期的な点検体制がなく、職員などが気づいた際に地上から目視で確認していたとのことである。</p> <p>国土交通省によれば、今回落下した「標示板」は道路標識に分類され、国道なら国が、県道や市道などは自治体が管理することになっている。</p> <p>しかしながら、この道路標識の維持管理に関しては統一的な取り決めがなく、各道路管理者が、国で提示している点検要領などを参考にして進めていると承知している。</p> <p>①今回のような事故を未然に防ぐためにも点検においてはより慎重にかつ正確に進めていくべきと考えるが、道路標識・カーブミラー・視聴覚障害者誘導ブロックについてはどのように定期的な点検を行っているか伺う。</p>

発言の順序	発言者	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
16	宮路 敏裕 (一問一答方式)	1. 地域経済と小規模事業者支援について	(1) 地域経済の景況感について	①内閣府発表による国内総生産7～9月期速報値は内需の不振などの要因で、3期ぶりマイナス成長と報じられた。 本市の事業者にとっても同様の事態に見舞われていると想定されるが、把握していることを伺う。
			(2) 物価等高騰対策の交付金活用について	①市では国の交付金を活用して独自の緊急支援策を講じているが、新たに国が補正する臨時交付金を活用し、市民のくらしと営業を支えるためにどのような検討がされているのか伺う。 ②住宅リフォーム助成事業は内需を喚起し地域経済活性化の効果を大いに上げてきた。 国の交付金を活用し事業の拡充を出来ないのか伺う。
			(3) 消費税インボイス制度導入による問題点について	①国税庁のインボイス制度電話相談センターへの相談件数が一月で7万3千件にのぼっている。 元請からインボイスになぜ登録しないのか質されたとか、免税事業者が値引き圧力にさらされている事例などについて、どこに相談したらよいかわからないという声がある。 市としても制度導入による影響について、実態調査をすべきと考えるが認識を伺う。
		2. 公共交通について	(1) 交通弱者によりそった交通計画づくりについて	①来年度は2024年を始まりとする燕・弥彦地域公共交通網形成計画策定の運びとなるが、これまで市民への意向調査など市民の声を聞く機会があったのか、どういう意識や意向があるのかなど、把握していることを伺う。 ②コミュニティバス利用者は、来年の県央基幹病院開院により停留所の改編があるのかなど、心配している。 できるだけ早く情報がほしいということが心情であると思うが、認識を伺う。 ③コミュニティバス・オンデマンド交通とも、認知され期待されている。 2025年は戦後の団塊世代が75歳となるピークであり、これら交通軸・交通網をさらに強化しなければニーズに答えられないのではないか、認識を伺う。